

精度管理アンケート

精度管理事業部事務局員：杉山 大輔
(安城更生病院：TEL:0566-75-2111)

I. はじめに

本年度の精度管理調査は日本臨床衛生検査技師会精度管理事業・データ標準化事業システム(JAMTQC)を利用し、昨年度と同時期に同様の内容で実施した。

また、精度管理調査と同時にアンケート調査を実施し、参加施設から貴重なご意見を頂いた。次年度以降の精度管理事業展開へ反映させるべく、以下にその集計結果を示す。

なお、ご意見・ご要望等にて重複した内容については割愛させて頂いた。

II. 対象項目

JAMTQC内にてアンケート設問を設定し、回答を求めた。

【アンケート内容】

1. 技師長クラスの方

本精度管理調査の参加費の妥当性、日臨技精度保証施設認証制度、総括統計表、JAMTQC、事業全般に対する意見や要望を調査した。

2. サンプルサーベイ部門

項目数、試料の量に関する調査を行った(2題)。

3. フォトサーベイ部門

設問量、難易度、設問内容に関する調査を行った(3題)。

4. 評価対象外設問を出題した部門

設問量、難易度、設問内容、評価対象外設問の必要性に関する調査を行った(4題)。

5. JAMTQCシステムについて

使用方法、操作性について昨年と比較しての感想についての調査を行った(3題)。

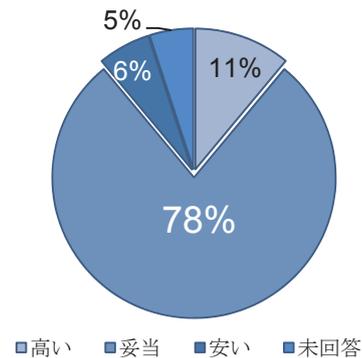
III. 対象施設

アンケート調査は平成28年度愛知県臨床検査精度管理調査に参加した135施設を対象とした。

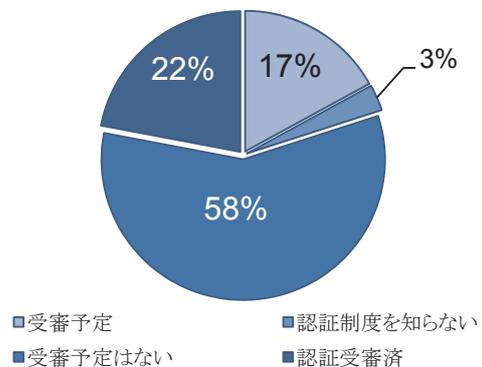
IV. 調査結果

1. 愛知県臨床検査精度管理全般

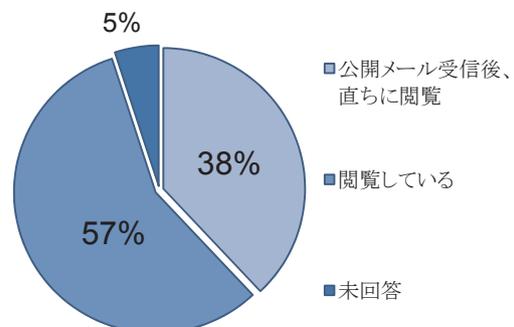
1) 他の外部精度管理調査との比較や調査内容を踏まえた本調査の参加費の妥当性について



2) 日臨技精度保証施設認証制度について



3) 愛知県臨床検査精度管理調査の総括統計表について



4) JAMTQCに関する要望・意見について

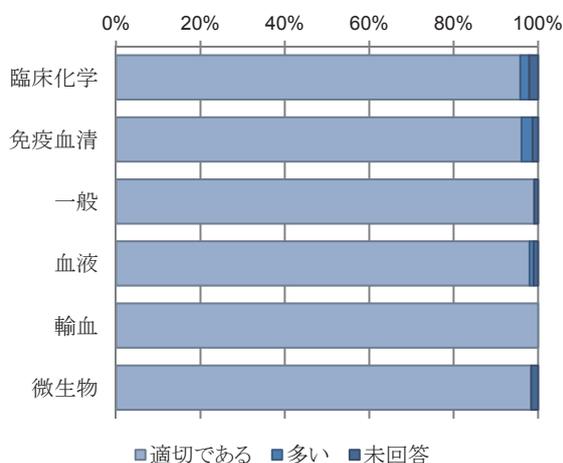
- ・重要な精度管理に信頼も高く、大変助かっている。不本意な結果の場合も班員の方が丁寧に説明して頂き、質の向上に役立てることができた。
- ・検査精度の維持・向上また技師の意識向上、施設幹部へのアピールのためにも継続して欲しい。
- ・ヘモグロビンA1cの検体量が少なく検査できなかった。1 mLは必要だと思う。

5) 精度管理事業全般に関する要望・意見について

- ・他団体の精度管理調査と統合化されると効率的と思われる。
- ・今は全国の基準値ではなく、愛知県の基準値を採用している。今後の動向が気になっている。
- ・毎年しっかりやっていただいてありがたく思う。

2. サンプルサーベイ部門

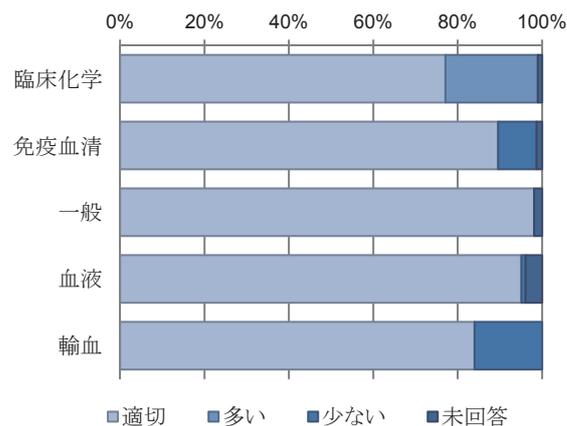
1) 測定項目数について



	適切	多い	少ない	未回答
臨床化学	95.8	2.1	0.0	2.1
免疫血清	96.1	2.6	0.0	1.3
一般	99.1	0.0	0.0	0.9
血液	98.0	1.0	0.0	1.0
輸血	100.0	0.0	0.0	0.0
微生物	98.4	0.0	0.0	1.6

内訳(%)

2) 試料の量について

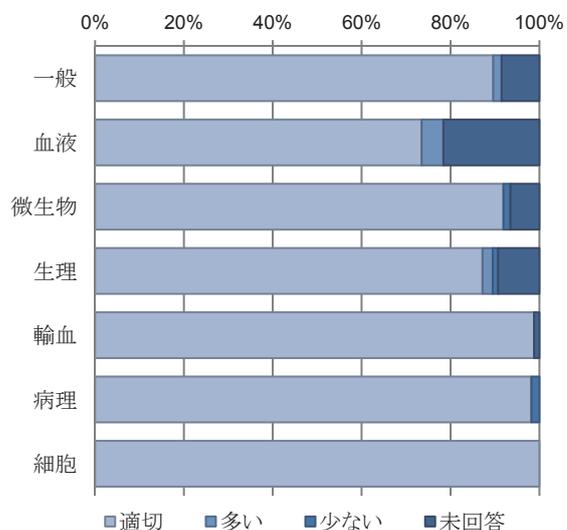


	適切	多い	少ない	未回答
臨床化学	77.1	0.0	21.9	1.0
免疫血清	89.6	0.0	9.1	1.3
一般	98.1	0.0	0.0	1.9
血液	95.1	0.0	1.0	3.9
輸血	84.0	0.0	16.0	0.0

内訳(%)

3. フォトサーベイ部門

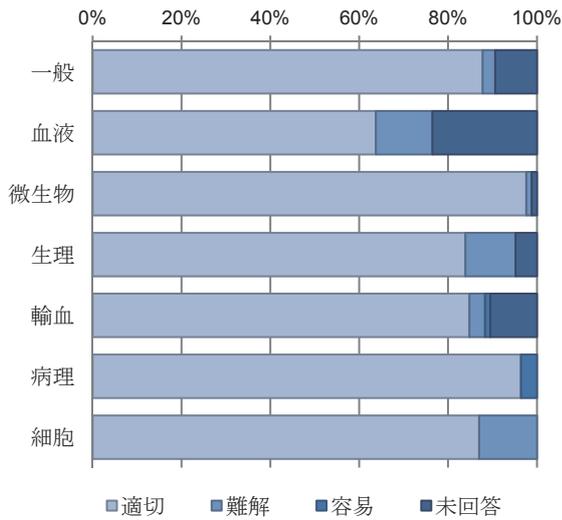
1) 設問の量について



	適切	多い	少ない	未回答
一般	89.6	1.9	0.0	8.5
血液	73.5	4.9	0.0	21.6
微生物	91.9	0.0	1.6	6.5
生理	87.2	2.3	1.2	9.3
輸血	98.8	0.0	0.0	1.2
病理	98.2	0.0	1.8	0.0
細胞	100.0	0.0	0.0	0.0

内訳(%)

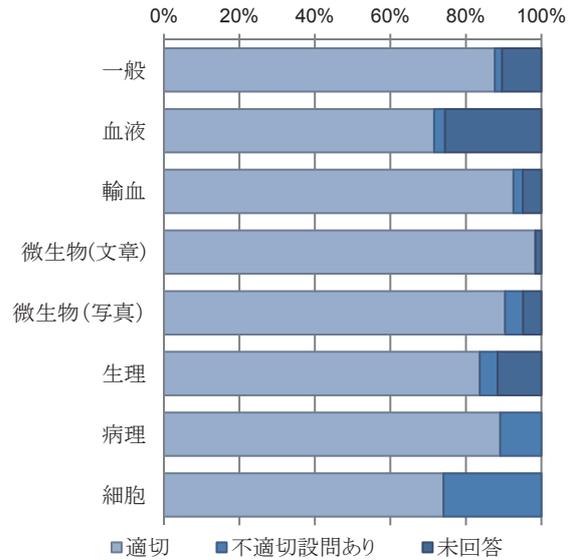
2) 設問の難易度について



	適切	難解	容易	未回答
一般	87.7	2.8	0.0	9.4
血液	63.7	12.7	0.0	23.5
微生物	97.5	1.2	0.0	1.2
生理	83.9	11.3	0.0	4.8
輸血	84.9	3.5	1.2	10.5
病理	96.4	0.0	3.6	0.0
細胞	87.0	13.0	0.0	0.0

内訳(%)

3) 設問の内容について

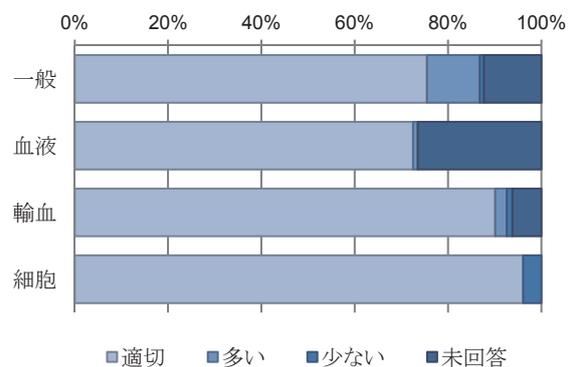


	適切	不適切設問あり	未回答
一般	87.7	1.9	10.4
血液	71.6	2.9	25.5
輸血	92.6	2.5	4.9
微生物(文章)	98.4	0.0	1.6
微生物(写真)	90.3	4.8	4.8
生理	83.7	4.7	11.6
病理	89.1	10.9	0.0
細胞	74.1	25.9	0.0

内訳(%)

4. 評価対象外設問

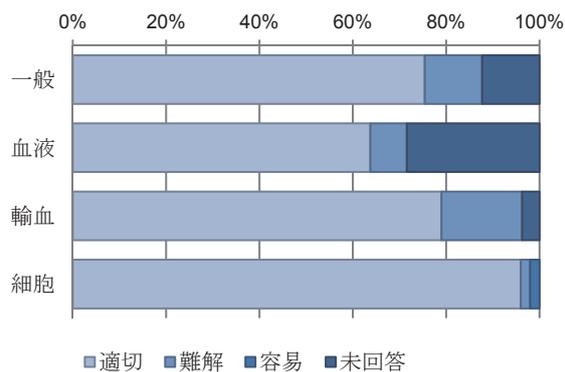
1) 設問の量について



	適切	多い	少ない	未回答
一般	75.5	11.3	0.9	12.3
血液	72.5	1.0	0.0	26.5
輸血	90.1	2.5	1.2	6.2
細胞	96.1	0.0	3.9	0.0

内訳(%)

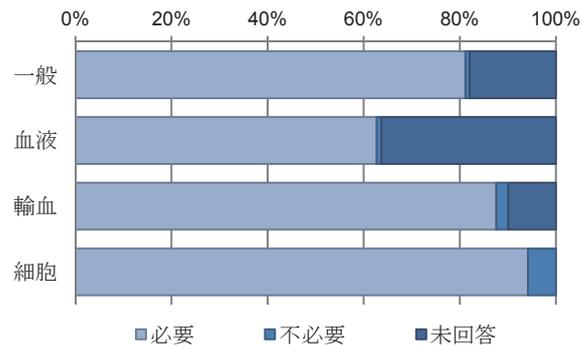
2) 設問の難易度について



	適切	難解	容易	未回答
一般	75.5	12.3	0.0	12.3
血液	63.7	7.8	0.0	28.4
輸血	79.0	17.3	0.0	3.7
細胞	96.0	2.0	2.0	0.0

内訳(%)

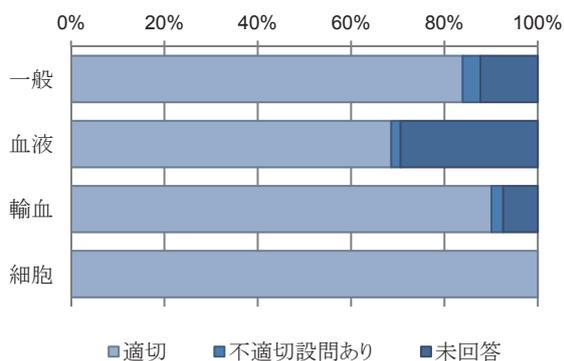
4) 評価対象外設問の必要性について



	必要である	不必要である	未回答
一般	81.1	0.9	17.9
血液	62.7	1.0	36.3
輸血	87.7	2.5	9.9
細胞	94.2	5.8	0.0

内訳(%)

3) 設問の内容について

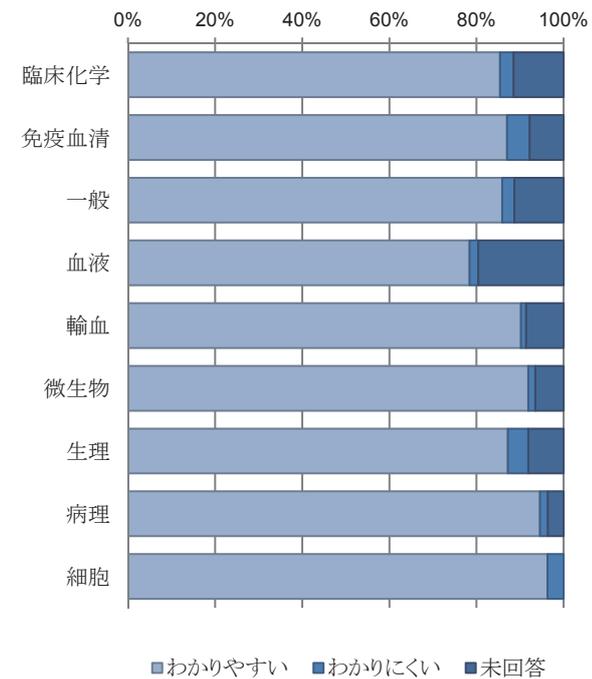


	適切	不適切設問あり	未回答
一般	84.0	3.8	12.3
血液	68.6	2.0	29.4
輸血	90.1	2.5	7.4
細胞	100.0	0.0	0.0

内訳(%)

5. JAMTQCシステム

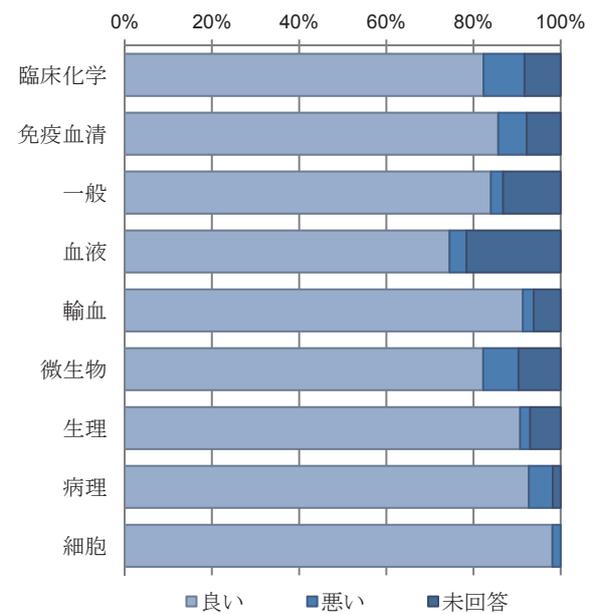
1) システムの使用方法について



	わかりやすい	わかりにくい	未回答
臨床化学	85.4	3.1	11.5
免疫血清	87.0	5.2	7.8
一般	85.8	2.8	11.3
血液	78.4	2.0	19.6
輸血	90.1	1.2	8.6
微生物	91.9	1.6	6.5
生理	87.2	4.7	8.1
病理	94.5	1.8	3.6
細胞	96.3	3.7	0.0

内訳(%)

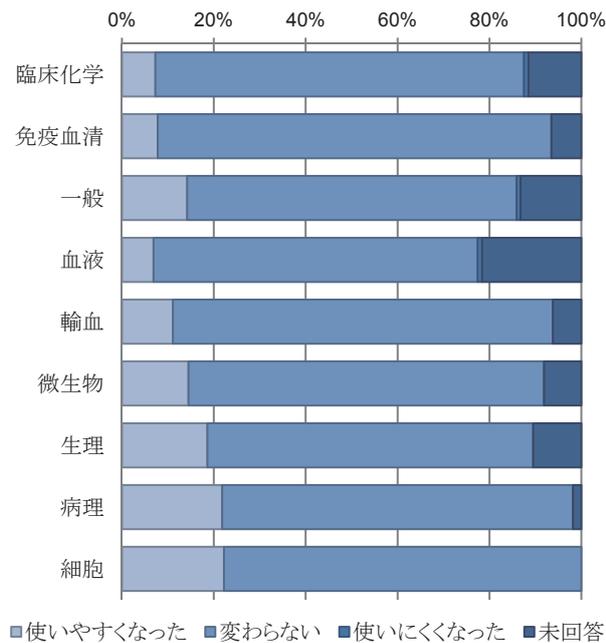
2) システムの操作性について



	良い	悪い	未回答
臨床化学	82.3	9.4	8.3
免疫血清	85.7	6.5	7.8
一般	84.0	2.8	13.2
血液	74.5	3.9	21.6
輸血	91.4	2.5	6.2
微生物	82.3	8.1	9.7
生理	90.7	2.3	7.0
病理	92.7	5.5	1.8
細胞	98.1	1.9	0.0

内訳(%)

3) 昨年と比較した本年度システムの使いやすさ



	使いやすくなった	変わらない	使いにくくなった	未回答
臨床化学	7.3	80.2	1.0	11.5
免疫血清	7.8	85.7	0.0	6.5
一般	14.2	71.7	0.9	13.2
血液	6.9	70.6	1.0	21.6
輸血	11.1	82.7	0.0	6.2
微生物	14.5	77.4	0.0	8.1
生理	18.6	70.9	0.0	10.5
病理	21.8	76.4	0.0	1.8
細胞	22.2	77.8	0.0	0.0

内訳(%)

V. 解説および考察

今年度も多くの参加施設に各種アンケートに協力して頂いた。今回実施したアンケートの集計結果から、以下の通り総括した。

1. 他の外部精度管理調査との比較や調査内容を踏まえた本調査の参加費の妥当性は、78%の施設が妥当、6%の施設が安い、11%の施設が高いと回答があった。精度管理事業部としては、今後も参加費に見合う調査実施に努めていきたい。
2. 日臨技精度保証施設認証制度は、17%の施設が受審予定、58%の施設が受審の予定はない、22%の施設が認証受審済み、3%の施設が認証制度を知らないと回答があった。精度が十分保証されている施設を増やすため、受審施設の増加が次年度以降の課題であると考ええる。
3. 愛知県臨床検査精度管理調査の総括統計表は、95%の施設が公開メール受信後、直ちに閲覧、または、閲覧していると回答があった。次年度以降も公開メール配信を継続して、周知を徹底していきたい。
4. サンプルサーベイ部門では、測定項目数、試料の量についてアンケートを実施した。
 - 1) 測定項目数について
各部門95%以上の施設が適切と回答しており、臨床化学部門の2.1%、免疫血清部門の2.6%、血液部門の1.0%の施設が多いと回答があった。また、少ないと回答した施設はなかった。
 - 2) 試料の量について
一般、血液部門では95%以上の施設が適切と回答があったが、臨床化学部門の21.9%、免疫血清部門の9.1%、輸血部門の16.0%の施設から少ないと回答があった。
5. フォトサーベイ部門では、設問の量、設問の難易度、設問の内容についてアンケートを実施した。
 - 1) 設問の量について
多い、または、少ないと回答した施設は各部門5%以下であった。細胞部門では全施設が適切と回答があった。
 - 2) 設問の難易度について
微生物、病理部門では95%以上の施設が適切と回答していたが、血液部門の12.7%、生理部門の11.3%、細胞部門の13.0%の施設からは難解と回答があった。また、輸血部門の1.2%、病理部門の3.6%の施設からは容易と回答があった。
 - 3) 設問の内容について
輸血、微生物部門では90%以上の施設から適切と回答があったが、病理部門の10.9%、細胞部門の25.9%の施設からは不適切だと感じた項目があると回答があった。

6. 評価対象外設問では、設問の量、設問の難易度、設問の内容、評価対象外設問の必要性についてアンケートを実施した。

1) 設問の量について

輸血、細胞部門の90%以上の施設から適切と回答があった。また、一般部門の11.3%の施設が多いと回答していた。

2) 設問の難易度について

細胞部門の96.0%の施設が適切と回答があったが、一般部門の12.3%、血液部門の7.8%、輸血部門の17.3%の施設からは難解と回答があった。

3) 設問の内容について

不適切だと感じた項目があると回答した施設は各部門5%以下であった。

4) 評価対象外設問の必要性について

一般、輸血、細胞部門の80%以上の施設から必要と回答があった。

7. JAMTQCシステムでは、システムの使用方法、操作性、昨年と比較した本年度システムの使いやすさについてアンケートを実施した。

1) システムの使用方法について

輸血、微生物、病理、細胞部門の90%以上の施設がわかりやすかったと回答していた。

2) システムの操作性について

輸血、生理、病理、細胞部門の90%以上の施設から操作性は良いと回答があった。

3) 昨年と比較した本年度システムの使いやすさ

使いにくくなったと回答した施設は各部門1.0%以下であった。

VI. まとめ

今年度からすべてのアンケート調査をJAMTQCシステム上で行うことができるようになり、アンケート回答に要する参加施設の負担は軽減されたと考える。

アンケート調査で頂いたご意見は真摯に受け止め、来年度の検討課題とし、より使いやすいシステムの構築に向けて取り組んでいきたいと考えている。今後とも皆様のご支援、ご協力をお願いしたい。

VII. 実務担当者

精度管理事業部長：

○佐野 俊一（愛知医科大学病院）

精度管理担当理事：

○菊地 良介（名古屋大学医学部附属病院）

精度管理事業部事務局員：

○寺田 達夫（愛知医科大学メディカルクリニック）

○鈴木 博子（名古屋大学大学院）

○山口 京子（愛知医科大学病院）

○榊原 沙知（豊橋市民病院）